

一般質問の要旨 (令和7年12月定例会)

【一般質問】

	議員名	所属会派	質問形式	登壇予定日
1	高橋 秀策	超党・市民ファースト議員団	一括	12月8日 (月)
2	上羽 和幸	公明党議員団	一問一答	
3	野瀬 貴則	新政クラブ議員団	一問一答	
4	谷川 眞司	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	
5	伊田 悦子	日本共産党議員団	一問一答	
6	廣瀬 昇	超党・市民ファースト議員団	一括	
7	松田 弘幸	公明党議員団	2分割	
8	眞下 隆史	新政クラブ議員団	一問一答	
9	水嶋 一明	自民党鶴政クラブ議員団	一括	12月9日 (火)
10	小杉 悦子	日本共産党議員団	一問一答	
11	福本 明日香	超党・市民ファースト議員団	一問一答	
12	杉島 久敏	公明党議員団	一問一答	
13	今西 克己	新政クラブ議員団	一問一答	
14	南 正弘	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	
15	小西 洋一	日本共産党議員団	一問一答	
16	仲井 玲子	超党・市民ファースト議員団	3分割	
17	小谷 繁雄	公明党議員団	一問一答	12月10日 (水)
18	眞下 弘明	新政クラブ議員団	一問一答	
19	川口 孝文	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	
20	西村 正之	超党・市民ファースト議員団	一括	
21	田畑 篤子	新政クラブ議員団	一問一答	
22	尾関 善之	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	
23	山本 治兵衛	新政クラブ議員団	一問一答	
24	上野 修身	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	

【一般質問】

1 高橋 秀策 議員（超党・市民ファースト議員団） [一括]

1 静浜ポンプ場建設工事について

紛争審査会に申請する紛争の解決の手段にはどのようなものがあるのか、また、審査会が開かれる頻度はどれくらいの間隔なのか、審査会は公開なのか、審査会の内容は非公開なのか、また、市側は調停にどのような体制で臨むのか、例えば代理人を立てるのかを問う。



2 小学校給食費無償化について

本年3学期から小学校の給食費無償化が始まるが、目的を達成するためには子供たちや保護者などに対して、給食費無償化の目的をしっかりと伝えることや市民に対しても子供の成長を社会全体で支える「子育てしやすいまち」の実現を図っていくんだという説明も必要とされるが、その取組について問う。

3 赤れんが周辺等まちづくり事業の進捗について

市役所前バス停がロータリー内に移設されて1年が経過（令和6年10月5日移設）した。利用者の状況やニーズを十分に確認されてきたと思うが、バス停の屋根設置について問う。

2 上羽 和幸 議員（公明党議員団） [一問一答]

1 物価高騰対策、重点支援地方交付金について

政府は総合経済対策に重点支援地方交付金を2兆円としているが、本市への交付はどの程度見込んでいるか。重点支援交付金は、自治体に応じた活用ができるので、効果的な活用をいただき、全ての人に直接支援や恩恵のあるものにしていただきたい。米価の高騰からお米券の発行を求める声も多い。発行の手法には様々あるが、取組について問う。



2 子宮頸がん予防ワクチン（HPVワクチン）について

本市での子宮頸がんを予防するHPVワクチンの定期接種の状況と、今後の推進について問う。今年の8月25日に、男性に対してもHPV9価ワクチンが承認された。厚労省が男性の定期接種も議論を継続しており、早期実施が期待されることもあり、新たに多くの自治体が独自のワクチン接種助成制度を始めているが、本市の実施の考えについて問う。

3 野瀬 貴則 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 災害時における公衆衛生の改善について

大規模災害時には下水施設が損傷し、トイレが流れなくなり、避難所の衛生環境が急速に悪化する。それが生命にも影響を及ぼすことからその対策が必要である。簡易トイレなど備蓄も進んでいるが、運用体制がまだ不十分であり、本市の災害時におけるトイレなど公衆衛生の改善に向けた体制づくりと市民への周知について問う。



2 学校徴収金の公会計化について

小中学校の給食費無償化に伴い、学校徴収金の一部公会計化が実施されている。しかし、他の副教材費や修学旅行費・体操服などは依然として学校管理であり、保護者や教師の徴収負担が改善されていない。隠れ教育費を解消し、子供たちの学習環境を市全体で考えていくため、完全公会計化に向けての課題と実現についての考えを問う。

4 谷川 眞司 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

1 クマによる被害対策について

緊急銃猟制度の開始から3か月が経過する中、制度運用の課題と改善策、職員研修の充実、マニュアル改訂、ハンター確保やガバメントハンター導入、府県間の情報共有、増加するクマ個体数の管理、さらに政府の被害対策パッケージへの市の対応方針について問う。



2 大学連携による健康寿命の拡大と市の医療体制の現況について

舞鶴市の診療科不足により市外紹介が生じている現状、救急受入先確保の遅れによる市民の不安、退院後の転院先探しの負担増など医療提供体制の課題が指摘されている。加えて、遠隔診療やデータ分析を活用した健康寿命延伸策の導入について市の見解を問う。

3 本市の大規模火災対策について

大分市火災を踏まえ、本市の初動および拡大時の消防体制、木造住宅密集地域の把握と指定基準、狭隘道路・袋小路など消防活動の障害への対応を確認する。また、火災を防ぐための対策と、自助・共助による地域連携の在り方を問う。

5 伊田 悦子 議員（日本共産党議員団） [一問一答]

1 義務教育に係る保護者負担の軽減について

子育ての悩みや負担は、「子どもの教育や将来の教育費」この答えが多い。また、憲法は「義務教育は無償」としていることから、国に大幅な教育予算の増額を求める必要がある。教育費の無償化を目指し、福知山市で就学旅行費が無償化となることから本市もその方向での検討が必要。見解を問う。



2 通学路の安全確保について

昨今、クマ出没が多発している。中舞鶴の長浜地区では、唯一、人身被害が発生した。市内の通学路の点検とその対策の現状を問う。中舞鶴小学校への通学路、市道男子校下通線の早期整備で安心・安全な通学路の確保が必要。その認識を問う。

3 こども誰でも通園制度について

保護者の就労の有無や要件を問わず、乳幼児を時間単位で保育所に預けることができる「こども誰でも通園制度」が来年4月からスタートする。現在、公立園3園で試行実施されているが、制度そのものの問題点が浮き彫りになりつつある。本来、公的保育の拡充・充実こそ必要で、国にこの点を求めるべき。見解を問う。

4 ジェンダー平等の本市の取組について

国へ「女性差別撤廃条約選択議定書」の批准を求めること。本市の「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」の実績とその意義。男性トイレにサニタリーボックスの設置を求める。これらを通して、本市のジェンダー平等の取組への認識を問う。

6 廣瀬 昇 議員（超党・市民ファースト議員団） [一括]

・ 地域医療の再編統合と持続可能な未来について

舞鶴市長と市内公的4病院が、地域医療再編に向けた協議開始に合意した。これは、長年の課題解決への歴史的一步だが、市民の不安や現場の疲弊は深刻であり、あくまで出発点に過ぎない。本質問では、改革の必要性、目指すべき持続可能な医療の未来図、そして実現への具体的戦略について市の決意を問う。



7 松田 弘幸 議員（公明党議員団） [2 分割]

1 5 歳児健診について

5 歳児健診は、小学校入学前に子供の発達状況や心身の健康状態をチェックする健診である。身長や体重の測定、目の検査、発達状況の確認で、必要に応じて発達障害などの早期発見・早期支援につなげる。生活習慣のチェックや子育て相談も含まれる。本市の健診の流れを問う。



2 がん検診・健康診査の取組について

NHKの番組「あしたが変わるトリセツショー」と連動し、本市においても、がん検診の受診率向上を目指す「希望の虹プロジェクト」に参加している自治体としてテロップで流れていたため、実施状況や効果等を問う。

3 婚活について

婚活を実施された婚活マスターからは、駅から離れたところで開催する場合や婚活イベント内での移動がある場合の足の確保等を含め、婚活に対する今後の支援として何か考えられないか問う。

4 バスまち空間について

バス待合室は、事業主が整備をされるとの捉え方ではなく、まちづくりとして市民に喜ばれる整備として実施すべきで、そういったことがバス利用の促進に繋がる。よく利用される施設や病院前、市役所等行政が責任を持って進めていく決意が必要と感ずるので本市の考えを問う。

8 眞下 隆史 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 J R 東舞鶴駅周辺の開発について

11月初旬に、J R 東舞鶴駅周辺の舞鶴市所有地の開発計画があると報道があった。初耳であり、計画の有無も確かではないが、駅を中心とした「まちなか学びの拠点整備事業」として、国土交通省の採択を得れば、官民連携で開発が可能となるようだが、議会でもそうした計画は聞いておらず、今後の事業実現に向けた市の見解を問う。



2 市民参画によるまちづくりについて

自治体の発展には、舞鶴市民の皆さんの力なくして成し得ないと思う。市も次期舞鶴市総合計画の策定において、市民意見の聴取に力を入れている現状だが、どこまで盛り上がり参画を得るかが注目であり今後の鍵となる。市民参画を促す市の政策と、市民が求める将来像を実現するために、市民の役割や必要性について市の見解を問う。

9 水嶋 一明 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一括]

- ・ 持続可能な消防組織の在り方について
「京都府中・北部地域消防指令センター」の共同運用に参加され、「はしご車」を綾部市と共同購入され運用され、消防団も20団から1団制へ再編された。また、少子高齢化・人口減少等に対応した持続可能な消防組織の再編等に取り組んでこられた。その取組の効果と課題や、今後の持続可能な組織の方向性等について問う。



10 小杉 悦子 議員（日本共産党議員団） [一問一答]

- 1 農家が安心して生産が継続できる農業の振興について
今年の高温や渇水でのコメの収量への影響や、影響を受けた農家への支援策について問う。また「令和のコメ騒動」を背景に、石破前政権はコメの増産に方向転換を示したが、高市政権は元の方角に戻すことにしている。政治に振り回される農家への影響など、農政の方針転換について、市の認識を問う。
- 2 地域医療の再編・統合について
第7回検討会議で「東に一つ、西に一つ」「急性期を東に集約」の合意についての市の説明責任を問う。本市は医師や高度急性期ベッドが少なく、医療需要が減少している。今も、これからも医師の確保で、医療提供体制の充実を図ることについて問う。
- 3 「水上無人機」の開発について
雇用・港湾産業振興の観点から、「水上無人機」開発について提案説明がされた。企業が防衛省向けに開発した「無人航行船」の民間活用を目指しているということから、産業の活性化だけではなく、軍事目的に使われるのではないかとという市民の心配もあることから市の認識を問う。



11 福本 明日香 議員（超党・市民ファースト議員団） [一問一答]

- 1 本市の特色ある教育について
インクルーシブ教育モデル事業の成果と課題、子供の声の受け止め、教育現場の評価、カリキュラムマネージャー等の役割継続、支援員配置の基準見直し、支援ニーズ増への対応を問う。加えて、副籍・支援籍制度の研究状況と、地域クラブ活動「まいかつ」について市の考えと、参加格差防止、指導者の質保証、生徒意見の反映などについて見解を問う。
- 2 二地域居住と関係人口の創出について
都市と地方を行き来する二地域居住を、地域の担い手不足解消や新たな地域活性の仕組みとして捉え、国の制度改正や先進事例を踏まえた本市の考え方を問う。加えて、空き家活用や多拠点生活を通じて、教育・観光・産業など地域参画につなげる関係人口創出の仕組みづくりを市としてどのように進めるかを問う。
- 3 本市の公共施設について
親海公園の老朽柵への対応と、未更新部分の危険性・安全対策の方針を確認するとともに、利用者マナー低下への対応を問う。城南会館では撤去された遊具の判断根拠、子どもの居場所としての役割、公園との住み分けを踏まえた再設置や環境整備の考え方について市の見解を問う。



12 杉島 久敏 議員（公明党議員団） [一問一答]

1 聴覚障がいのある方への支援について

共生社会の実現に向けた啓発活動、及び聴覚障がいのある方への支援として、AI技術の普及に伴う手話奉仕員養成講座の在り方や、障害のある方が利用されるスポーツ施設等のハード・ソフト面の整備計画について問う。



2 マイナ救急実証事業について

マイナンバーカードを健康保険証として利用する「マイナ救急実証実験」が全国の消防本部で開始されることに伴う本市の準備状況を問う。

マイナ保険証有効活用のためのマイナンバーカード保有状況や健康保険証利用登録に伴う市民理解を問う。実証事業に伴う課題、患者情報の病院間ネットワーク構築について問う。

13 今西 克己 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 静浜ポンプ場土木工事に係る損害賠償議案審査について

地方自治法第96条第1項第13号は、損害賠償の額の決定を議会の議決事件としている。議会が損害賠償の妥当性を判断するには、損害額の根拠となる設計書や単価情報などが不可欠となっている。今回の秘密会の議案審査の中で、提出いただいた資料を「推測されないようにしている」「綴じている順番はランダムになっている」と、答弁された。このような市の答弁は極めて不適切と思うがその答弁姿勢を問う。



2 逸失利益等の損害賠償が建設業法に基づき調停に付されたことについて

舞鶴市が、静浜ポンプ場土木工事の契約を任意解除権を行使して解除したことに伴う損害賠償の逸失利益は、受注者と交渉を継続してきたが合意に至らなかった。今般、受注者が建設業法に基づく調停申請を京都府建設工事紛争審査会に行った。この調停は、当事者間において建設工事のそれぞれの実情に即した解決を求めるもので裁判所の民事調停に代わるものである。今後の舞鶴市の対応を問う。

3 静浜ポンプ場機械設備工事の現状と今後について

機械設備工事は、令和4年3月に契約、令和5年3月に工期を令和7年1月31日に契約変更された。本体の土木工事が契約解除となっており、改めて土木工事を設計からやり直すという中で、旧設計の中での機械設備契約を維持することは困難と考える。今後、新たな設計仕様のもとで本体工事が施工されることになることから、現契約を解除することが適正と考えるが市の見解を問う。

4 委員会審査を秘密会に委ねた市の受け止めについて

静浜ポンプ場整備に関する調査等特別委員会は、土木工事に係る損害賠償議案審査に対して、損害賠償の妥当性を判断するには、損害額の根拠となる設計書や単価情報などが不可欠であり、公開の場での議案審査と資料の提出を再三求めたが、個人情報、企業情報等の開示につながるという理由から秘密会での審査となった。市民に見えない形での秘密会となったことに対して市の受け止めを問う。

14 南 正弘 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

1 新中央図書館について

舞鶴市の新中央図書館建設について、今後のスケジュール並びにマイルストーン、建設費の見込み、土壌汚染問題の現在までの状況、中央館と分館の役割、費用対効果の検証について問う。また、年間来館者数の見込み、維持費と便益のバランスの見込み、教育・交流効果の数値化について問う。



2 市民からの声について

舞鶴市の病院の統廃合について、概略の時期、病院統廃合と中丹医療圏についての考えを問う。小中学校の防犯カメラの設置について、子ども達の安全・安心を守るためにも必要ではないかと考えることから市の考えを問う。市道の道路標識等について、舞鶴市の市道で標識の汚れや視認性低下が問題になっているところについて問う。

15 小西 洋一 議員（日本共産党議員団） [一問一答]

1 令和8年度の予算編成について

物価高が止まらない。いったいいつになったら落ち着くのか。一方で、賃金も上がらず、年金は目減りするばかり。こんな時こそ政治の力が求められるが、政府の施策は根本的な対策とはなっておらず、「やってる感」だけと言わざるを得ない。令和8年度の予算編成にあたって、「とことん生活応援」の施策について市の姿勢を問う。



2 多文化共生のまちづくりについて

今夏の参院選で、「外国人が増えて治安が悪くなっている」などのデマが拡散されて、「外国人が増えて不安」「外国人は優遇されている」などと答える人が増えた。果たして事実だろうか。私たちのまわりにはすでに多くの外国の方々がいて、暮らしや職場でも大切な役割を果たしておられる。本市の「多文化共生」のまちづくりを問う。

3 質の高い行政サービスについて

市は、来年1月13日（火）から、市役所の業務を変更する。開庁時間と電話受付時間を「午前9時00分～午後4時30分」とし1時間15分短縮する。市は「質の高い行政サービス」を変更理由としているが、「行政サービスの後退ではないか」の市民の声もある。背景には何があるのか、本市の行政サービスの充実に向けて何が必要なのかを問う。

16 仲井 玲子 議員（超党・市民ファースト議員団）〔3分割〕

1 稼げる観光について

観光客が来ることで観光消費が上がることは重要である。クルーズ船入港は一度に多くの観光客が訪れることから、かぶせ茶の部門で日本一の舞鶴茶のPRをより積極的に行い、お土産として認知度を高めていただきたい。また、既存の人・モノを活用したビジネスモデルを提案し、観光収益アップについて市の見解を問う。



2 一団制となった舞鶴市消防団について

本市の消防団が一団制となり、これまで以上に分団同士の連携が活発化しているが、その活動状況について問う。また女性消防団員も増加しているが、その活動状況について及び今後の活躍の場について問う。

3 舞鶴市の沿岸部の海の保全について

日本の沿岸部において、磯焼けが問題となっている。全国で藻場を守る活動が展開されているなか、本市の沿岸部における磯焼けの状況について問う。また、京都府との連携について問う。豊かな海の資源を守るために官学民一体となつての取組が必要だと考えるが現状について問う。

17 小谷 繁雄 議員（公明党議員団）〔一問一答〕

・ 成年後見制度の現状と課題、今後の展開について

成年後見制度の役割が今後さらに問われる中、高齢化などを背景に制度への関心が高まる一方で、担い手不足や手続の煩雑さも課題となっている。支援体制の強化や手続の簡素化、制度の周知、地域包括ケアの一環としての制度の充実と担い手育成について、本市の見解を問う。



18 眞下 弘明 議員（新政クラブ議員団）〔一問一答〕

1 地域コミュニティの維持と役員負担軽減のための回覧板電子化について

自治会役員の成り手不足が深刻化し、回覧板の配布・管理が負担の一つとなっているが、行政はこの現状をどう認識し、負担軽減策としての回覧板の電子化は、自治会機能維持のために必須と考えるのか、本市の見解を問う。



2 本市における運動公園の熱中症対策について

近年、災害級の猛暑が続くなか、運動公園利用者の安全確保は課題であるが、既存の対策で安全が確保できているか、現状認識と救護・搬送事例、市民要望の状況を問う。また、利用者の安全を最優先するため、ドライミスト設備の導入を具体的に検討する意向はあるか、それが施設の魅力向上や、大会誘致などの地域活性化やスポーツ振興に貢献すると考えるが本市の見解を問う。

19 川口 孝文 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

1 重要文化財等の維持整備等について

本市には、国指定重要文化財民家があり、保存会等の尽力により維持されているが、野生動物による損傷などが懸念される。市は、どのような支援を行ってきたのか、今後どのような支援ができるのかを問う。また、吉原地区を伝統的建造物群保存地区に選定する取組が進められている。同地区の歴史的街並みを維持するための防火施策を問う。



2 カキ養殖の現況等について

カキ養殖において、瀬戸内地域での大量へい死が問題となっている。広島県は、高水温と高塩分濃度が原因ではないかとしている。海の温暖化は本市近海でも見られ、本市のカキ養殖を継続させていくためには、他府県等の情報収集と他自治体や学究機関、事業者等の協力体制構築が必要と考える。本市の現況と市の対応を問う。

3 有害鳥獣等の捕獲・駆除等について

全国的にクマ被害が増大しており、本市も例外ではない。本市のクマ捕獲の近況について、また、クマ被害対策パッケージに示された、AI搭載カメラなど新技術の導入に関する考え、登山道への多言語看板などの設置状況、人とクマとの緩衝帯＝ゾーニングの実施についての対応・考えを問う。

20 西村 正之 議員（超党・市民ファースト議員団） [一括]

・ 児童生徒の不登校について

京都新聞によると、昨年、不登校小中学生は26人に1人、12年連続増と報道している。京都府内の不登校児童生徒数は、前年度比280人増の6,490人と13年連続で増え、過去最多を更新。不登校の小学生は44人に1人。中学生は15人に1人の割合である。

そこで、本市の児童生徒の不登校の現状と取組について、また、「明日葉」の現状と取組について問う。



21 田畑 篤子 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 市民サービスの向上について

市は、質の高いサービスを届ける目的として、「日本一働きやすい市役所」を目指したり、開庁時間の改正を行ったりしているが、果たして、市民のニーズに応じた行政サービスになっているのかを問う。インフォメーションの活用や女性活躍など市民目線での具体的な取組を提案する。



2 高齢者や障害のある人が安心して生活することができる環境づくりについて

昨今、医療の進歩とともに、医療ケアを必要とする高齢者が、在宅療養により、社会生活を送られているケースが増えている。その現状把握とその対応についてと、障害者日常生活用具給付事業の「排泄管理支援用具給付」について30年来、給付の上限額見直しがない現状について、本市の考えを問う。

3 市職員の議員に対するハラスメントについて

本年6月3日の出来事について、市の正式な回答は、5か月後の10月28日であった。議員個人としてではなく、舞鶴市と舞鶴市議会の問題にまで発展した。理由は、その内容に対して、市の対応があまりにも理不尽であり、誠意がなかったことによるものである。この市の対応について、「これでいいのか舞鶴市政？」を問う。

22 尾関 善之 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

1 静溪川ポンプ場建設について

事業推進にあたり、一番身近で工事を見守ってくださる地域の皆様への説明会、また、今後の事業再開に向け説明会の実施を問う。

検証委員会から最終的に設計と現場が合っていないという指摘について、本市の考えを問う。また、積算根拠に関する不開示の通達について、この通達を廃止することについて問う。



2 指定管理者制度について

選定委員会の選定基準については、言うまでもなく、公平、公正、中立的な立場で、審査を行うことが求められている。また、委員長は、審査全体の統括を行う立場であり、その透明性は非常に重要である。しかし、選定委員長が応募団体の構成員であることが判明。今回の決定についての考え方を問う。

23 山本 治兵衛 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 西舞鶴駅西口駅前広場について

今般、完成した西舞鶴駅西口広場の工事は大幅な工期変更や予算額など計画変更となった事業であったが、工事自体の検証について市の見解を問う。また、整備計画の中において、駅前広場の利用活用としての社会実験があった。その実験の効果と検証についてはなされたのか。最後に、広場の利活用が今後において求められてくる。現時点での市の考えとしてはどうか問う。



2 令和8年度予算編成方針について

令和8年度の予算編成方針が大きく変更される。これまでの一律シーリングから枠配分方式へと編成方針は移ってきたと認識しているが、今回の編成方針はどのような背景があって、何を目的として編成方針に至ったのか詳細にわたり確認したい。また、一件査定方式を実施されるということは、政策提案に対して予算的な精査と制約をどのようにするのか市の見解を問う。

3 西市民プラザに関する懸念事項について

西市民プラザはこれまで様々な懸念事項があり、その後の確認もなされていない。今定例会にて指定管理者の選定について議案が上程されているが、この際、その懸念事項について確認したい。

24 上野 修身 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

1 道路インフラ整備について

現代社会において最も基盤となる「道路」。現在、市内各所で整備がなされているが、今回は、「舞鶴若狭自動車道4車線化事業」として進められている「三国岳トンネル工事」「東西間の4車線化」について、国道27号、京都府と福井県境に位置する「青葉トンネル」の「国道27号青葉改良」、「小倉西舞鶴線」の「旧白鳥トンネルの拡幅改修」など、整備状況、並びに、今後の予定について問う。



2 今後の国際交流について

舞鶴市は、近畿地方の日本海側で唯一の重要港湾である「京都舞鶴港」を有し、終戦後から長きにわたり引揚港としての歴史もあり、古くから国際交流が盛んである。昭和36年にナホトカ市、昭和57年には、中国の大連市、平成10年には英国ポーツマス市と、姉妹・友好都市が結ばれ、平成28年からは、ウズベキスタンと交流が続いている。今後の国際交流について問う。